

仙人通信 219 本仁田山(1224m)

本仁田山は、青梅線奥多摩駅の北側で川苔山からの尾根上に位置し、ほとんどが杉や檜等に覆われた山である。又三等三角点の山でもある。

奥多摩駅を右手に進み、乳房観音を経て杉の木立の急斜面を登り山頂に至り、瘤高山を経て尾根伝いに、駐車場のある鳩ノ巣駅に下山するコースとした。

奥多摩駅から15分程舗装道路を進み日原川に架かる橋を渡るとT字路となる。国際マ釣り場が示された方向に進むと夫婦橋であり、今度は左手の住宅街を進むと林道となる。30分程進んだ諸仏工房と書かれたポイントに山頂を示す道標だ。登山道の始まりだ。近くには山頂まで2.2km・2時間半と書かれている。一般の登山では2.2kmは約1時間であり、如何に急勾配かを示している。10分程進むと、50m先に乳房観音とある。おかしな名前と思ひ確認しに向かった。観音様の横の添え書には、鎌倉時代の落人がこの地に住み植えた木が成長して、乳房の様な膨らみが垂れ下がった事に由来するとある。小生の住む座間のお寺にも家康公が植えられたと言われる銀杏の木に同様なものがあり理解出来た。

登山道は太い杉林の中で木葉に埋もれた上に、昨夜の雨で滑り易くその上に木の根と岩だらけである。45分程進んだろうか東側の尾根に到着だ。ここからは、大休場尾根のようだ。コースは更に急勾配となり気が抜けない。周囲に何も見えないのが寂しい限りである。

約1時間登っただろうか僅かに周囲が開け、10分程で山頂である。三角点を確認でき、駅から2時間45分で到着だ。奥多摩駅と川苔山を示す道標はあるも、多くの山頂にある丸太に取り付けられた表示は無く、30cm×10cm程の板に書かれた標識が杉の切株に挿してあるのみだ。振り返ると六つ石の先に富士山が顔を見せてくれていた。又ベンチが2本あるも視界は利かない。暫し休憩後、杉林の急勾配のコースを10分程下ると、南側がカラマツ・北側は落葉樹となり明るいコースだ。やがて又檜等に覆われたコースとなり10分程で瘤高山だ。本仁田山そして川苔山・鳩ノ巣駅を示す道標が立つのみだ。ここでは、東側が開けて、立川方面が望めた(霞んでおりその先は確認できず)。鳩ノ巣駅に向かう尾根を下る。南面は杉や檜の林であるも、東側は数mの幅で伐採されており、明るい尾根歩きだ。

足元では、10cmにも満たない丈のリンドウの仲間のセンブリやアサマリンドウそしてアキチョウジ・コウヤボウキがたくさん咲いて迎えてくれ癒された。

25分程でまたもやコースは檜林の中だ。急勾配ではあるも足元は良く整備、乾燥しており、歩き易い。日の光が当たる土手には、黄色いキバナアキギリ、赤いつリブネソウ、小さな花のノギク等を探ることが出来た。40分程で林道のある大神山の神が祀られたポイント、更に20分程で正法院の手前の道路に到着だ。住宅街・鳩ノ巣駅を通り車に戻った4時間10分(20500歩)の静かな山旅となりました。 (R3.10.8)

山頂からの富士山 山頂の表示 瘤高山の標識 センブリの花

